

# ●第1章 総則

## 第1節 鶴見区防災計画の目的

本計画は、横浜市防災計画「風水害等対策編」の区別計画として、鶴見区に風水害が発生した場合又は風水害の発生が予測された場合の区民及び区役所のための基本的な計画です。

この計画は、人命を守ることを最優先とした「被害を出さない地域・社会の実現」を目標として、鶴見区の地域の実情を踏まえた計画としており、区民、防災関係機関等のそれぞれの役割を明確にし、区民の生命、身体及び財産を災害から守ること、また、台風接近による風雨及び集中豪雨などが発生した場合でも、その被害をできるだけ軽減することを目的としています。

## 第2節 鶴見区の概況

### 第1 自然的条件

鶴見区は、横浜市の北東部に位置し、北西部の丘陵地、鶴見川流域の低地、臨海部の埋立地から形成され、そのほとんどは市街地となっています。東は川崎市、西は港北区、南は東京湾に接しており、関東ローム層からなる丘陵地帯と沖積層からなる低地が交錯して起伏に富んでいます。最高地は馬場の海拔47.2m、また、低地においては海拔0mの地域が複数あります。

一級河川である鶴見川が、南北に鶴見区を縦断する形で流れており、11か所に橋が架かっています。また、多摩川は隣接していないものの、矢向・市場・潮田は江戸時代に多摩川から二ヶ領用水を引き、水田が設けられた地域であり多摩川の洪水浸水に注意が必要とされます。

### 第2 社会的条件

#### 1 人口及び世帯

人口は約29万人、世帯数は約14万世帯で、本市人口の約7.8%を占めています。また、昼間人口は夜間人口の約89.8%で、居住型の地域であり、災害発災時刻により被害規模が異なることが予想されます。

#### 2 土地利用

土地利用として、ほぼ全域が市街化区域となっています。また、大規模公園である県立三ツ池公園がありますが、公園面積は、約1%に過ぎません。

#### 3 道路・交通

道路は国道1号及び15号、県道6号、14号、104号、111号及び140号などが主要幹線道路として使われているほか、首都高速横羽線が南部を東西に通っています。

鉄道は、JR京浜東北線、鶴見線、南武線、東海道線、横須賀線及びJR貨物並びに京浜急行線が鶴見区を東西、南北に縦断するようにとおり、13駅（鶴見駅・国道駅・鶴見小野駅・弁天橋駅・浅野駅・安善駅・新芝浦駅・海芝浦駅・京急鶴見駅・鶴見市場駅・花月総持寺駅・生麦駅・矢向駅）

が設置されています。そのうちバスによる広い駅勢圏を持つ JR 鶴見駅及び京急鶴見駅の乗降客数が特に多くなっています。

### 第3節 災害の想定

#### 第1 想定の基本

災害想定を具体的に定める場合には、災害の発生原因の規模、強度又は特性に応じて、これを各種段階に分類することができます。しかし、最悪の事態に対処して、対策を講じておくことが防災計画の目的とするところであるので、過去において、本土を襲った最大級の台風、すなわち伊勢湾台風級の大型台風が関東地方に上陸した場合を想定の基本とします。

#### 第2 想定台風

- (1) 台風の暴風域（平均風速 25m/s 以上、半径 350km）
- (2) 中心気圧 929.5hPa（ただし、上陸時 945hPa）
- (3) 最大風速 37m/s（最大瞬間 55m/s）
- (4) 総雨量 200mm
- (5) 速度毎時 40km

※ 暴風雨が継続する時間は、約 19 時間とし、台風が最接近する時期は大潮の満潮時とする。

#### 第3 災害の規模

風水害による被害の発生は、発生に至る要因として、気象、地象、水象状況とこれらに関連した危険要素の複合等様々な態様が考えられるほか、発生メカニズムにおいても不明な点が多いため、細部にわたる被害の予測を具体的な数量として算出することは、極めて困難です。

本計画では、過去に本土を襲った最大級の台風（伊勢湾台風級の大型台風）や、法令に基づいて設定する浸水想定区域の前提となる降雨などの、過酷な自然現象による風水害等の態様を勘案し、被害の発生が予測される区域の状況を想定することで、災害への対策を行うこととします。

なお、想定される災害は、浸水（洪水、雨水出水、高潮）・崖崩れ、土石流などの土砂災害・暴風、竜巻等の突風による災害・雪害・火山災害とします。

また、河川の氾濫等による水害について、次表のとおり、水防法第 14 条に基づき指定される洪水浸水区域等の、指定の前提となる降水量等が定められています。

計画規模（河川施設整備の目標とする降雨）

水系	指定の前提となる降水量	年超過確率*1	該当区
多摩川	流域の 2 日間総雨量 457 mm	1/200	鶴見区
鶴見川	流域の 2 日間総雨量 405 mm	1/150	鶴見区

想定最大規模（想定し得る最大規模の降雨\*2）

水系	指定の前提となる降水量	年超過確率*1	該当区
多摩川	流域の 48 時間総雨量 588 mm	1/1000	鶴見区
鶴見川	流域の 48 時間総雨量 792 mm	1/1000	鶴見区

※1 年超過確率 1/100 である場合、1 年間にその規模を超える洪水が発生する確率は 1%（1/100）となる。

※2 想定し得る最大規模の降雨：おおむね 1000 年に一度程度の大雨を上回る降雨量